

# シリーズ

## 家庭看護のコツ

### その8

だんだん外出が少なくなっていますか。秋は、外出には最適です。気分がいいときには、さあ、外に出てみましょう。

- ①帽子にはひもをつけ、風で飛ばないようにしましょう。
- ②足首の出る、短いズボンにしましょう。
- ③靴は、滑らなくて軽いものにしましょう。



相談は……

保健婦人センター ☎64-8992

間門の山本吾作さん(89歳)は、現代版竹取りの翁。つい最近まで竹やぶに行っては竹を切り、お茶の葉っぱを入れるかごや、しばかごをつくっていました。

山本吾作さん(間門)



仕事をやめてしまつたのは、お茶を栽培する農家が、もう茶かごを必要としなくなったことや、山本さん自身

# 個性派の道具たち

17

## 竹を割るナタ

市内では、竹かごを編んでいる人を、ほとんど見かけなくなりました。山本さんは、伝統の技術を伝える数少ない一人です。

も、目が悪くなってしまったからです。それでも、竹を割る道具の「ナタ」や、竹を曲げるのに使う「ノミ」など「さびらかいちゃあ」と、手入れは怠りません。道具は今でもピッカピカです。よく手入れされた道具は、竹を割るとき「シューッ」と、とてもいい音がします。

山本さんは、十七歳くらいのとき近所の人から習って、後は自己流。農具がほとんどでしたが、頼まれれば「ソバアゲザル」や「背負いかご」も編みました。材料の竹はモウソウダケ。三年物が最もよく、切り出しは十一月ころから。この時期の竹は、身が締まっていてつくるのが楽だし、虫もつきにくいのだそうです。

山本さんは、専らゲートボールの毎日。技術を受け継いでくれる人はいません。

### あなたの生活便利メモ

## 家庭看護のコツを学びましょう



鮎川澄子さん ☎六四一八九二

シリーズで、家庭看護のコツを掲載していますがいかがですか。もっと本格的に勉強してみたい人にお勧めなのが、十月二十一日から始まる家庭看護教室。保健婦人センターの保健婦鮎川澄子さんが、この教室にお誘いします。

「家庭看護教室は昭和六十一年から始まって、もう三百六十人が修了しています。出席率もとてもいいですね。やさしい気持ちの人が多くみたい。将来を考えて、看護の方法や看護のされ方を勉強したいと参加される人が多いです。残念ながら男の人はいません。看護教室は七回で、実技を中心に、シート交換、洗髪、床ずれの予防と手当てなど覚えていただきます。年をとって病気になるたびに、優しい看護をしてもらえたらどんなにうれしいでしょう。申し込みは十月十八日まで。一緒に学びましょう」



### こちら編集室

行楽のシーズンです。広報広聴課が自信を持ってお勧めするのが、10月29日、31日の公共施設見学。手軽に旅行気分を味わいたい人のバスツアーです。参加費は無料だし、添乗員だって美形とは言えな

いまでも、まあそれなりの——。日ごろ、「私の納めてる税金どうなってんの」とお考えの人にも、たっぷり使い道を知っていただけます。とにかく、ご参加ください。電話を、お待ちしております。

### 遊々タイム ⑬ 【竹細工】

見よう見まねで何でもつくっちゃうのは、久沢の望月利男さん。自宅の玄関には、竹でつくったカニ、竹トンボ、笛、ゆらりんトンボなどが、所狭しと並んでいます。中でも傑作は、ゆらりんトンボ。竹にとまったトンボが、少しの風でもゆらりゆらりと揺れるさまは、思わず「欲しい」と声が出そう。

望月さんが竹細工を始めたのは定年退職後。ネタの

